

## 天から投げ落とされた赤い竜

加藤 享

### 【聖書】ヨハネの黙示録 12章 12章1～18節

また、天に大きなしるしが現れた。一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。女は身ごもっていたが、子を産む痛みと苦しみのため叫んでいた。また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、火のように赤い大きな竜である。これには七つの頭と十本の角があって、その頭に七つの冠をかぶっていた。竜の尾は、天の星の三分の一を掃き寄せて、地上に投げつけた。そして、竜は子を産もうとしている女の前に立ちはだかり、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖ですべての国民を治めることになっていた。子は神のもとへ、その玉座へ引き上げられた。女は荒れ野へ逃げ込んだ。そこには、この女が千二百六十日の間養われるように、神の用意された場所があった。

さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らの居場所がなくなった。この巨大な竜、年を経た蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者は、投げ落とされた。地上に投げ落とされたのである。その使いたちも、もろともに投げ落とされた。

わたしは、天で大きな声が次のように言うのを、聞いた。「今や、我々の神の救いと力と支配が現れた。神のメシアの権威が現れた。我々の兄弟たちを告発する者、昼も夜も我々の神の御前で彼らを告発する者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血と自分たちの証しの言葉とで、彼に打ち勝った。彼らは、死に至るまで命を惜しまなかった。このゆえに、もろもろの天と、その中に住む者たちよ、喜べ。地と海とは不幸である。悪魔は怒りに燃えて、お前たちのところへ降って行った。残された時が少ないのを知ったからである。」

竜は、自分が地上へ投げ落とされたと分かったと、男の子を産んだ女の後をつた。しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒れ野にある自分の場所へ飛んで行くためである。女はここで、蛇から逃れて、一年、その後二年、またその後半年の間、養われることになっていた。蛇は、口から川のように水を女の後ろに吐き出して、女を押し流そうとした。しかし、大地は女を助け、口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った。そして、竜は海辺の砂の上に立った。

### 【序】熊本大地震を覚えて

去る4月14日に発生した**熊本大地震**は、2週間で1000回以上も地震が継続発生しています。あの東日本大震災の時の地震も震度7でしたが、熊本ではその激震が二度襲っています。激震で傷んだ家がこれからの地震で、何時崩れ落ちるか分かりません。安心して寝泊り出来ず、プライバシーのもてない避難所生活や窮屈な車の中の生活が長引いて、**心身の疲労**も限界を超えて居られます。本当にお気の毒です。この連休でボランティアの方も大勢集まって下さるようですが、有難いことです。

バプテスト連盟では、先週プリントを配布しましたが、**熊本南教会**は屋根瓦が全部崩れ落ち、軒先が壊れ、会堂内の壁の一部が崩落、天井もめくれれました。**東熊本教会**も会堂正面の壁が崩落しました。連盟では**第一次支援金 800 万円**を5月末まで募集しています。私たちはせめて祈りと募金による支援に参加いたしましょう。

## 〔1〕 巨大な竜に狙われる女

さて今日はヨハネの黙示録 12 章、**火のような赤い大きな竜**が天から**地に投げ落とされた黙示**を学びます。この竜は七つの頭と十本の角があり、星の三分の一を掃きよせて地上に投げ捨てることのできる大きな尻尾を持っています。この巨大な竜は**蛇、悪魔、サタン**とも呼ばれ、**全人類を惑わす者**です。

彼は**子を産もうとしている女**の前に立ちはだかり、産んだらその子を食べてしまおうとしていました。その子は、**鉄の杖で全ての国民を治める**ことになっていたからです。しかしその子は生まれると直ぐに、神の玉座へ引き上げられて守られました。

天使たちは集まってこの赤い竜に戦いを挑み、**天から地に投げ落としてしまいます**。竜は男の子を産んだ女を追いかけて続けますが、女は荒れ野の神が用意していた場所に逃げ込み、養われました（6 節）。竜は激しく怒って、その子孫の残りの者、すなわち神の掟を守り、イエスの証しを守り通している者たちに戦いをいともうとします。これが 12 章の概略です。

この**竜**と子を産む**女**は何を意味しているのでしょうか。「**女は男の子を産んだ。この子は鉄の杖ですべての国民を治めることになっていた**」（5 節）と記されていますから、**イエス・キリストの誕生**が心に浮びます。ユダヤ王の**ヘロデ**は、新しい王の誕生を拝みに来た東の国の博士たちの言葉を聞いて不安を覚え、ベツレヘム一帯の 2 才以下の男の子を皆殺しにしました。しかし天使のお告げを聞いた父ヨセフは、マリアとイエスを連れて、いち早くエジプトに避難しました。そこで竜は**ヘロデ**を、女は**マリア**を指していると言えるでしょう。

また 9 節には「巨大な竜、年老いた**蛇**、悪魔とかサタンとか呼ばれるもの」とありますから、旧約聖書最初の創世記エデンの園（楽園）で、エバを誘惑して禁断の木の実を食べさせた**蛇**が浮かんできます。神は蛇を厳しく裁きました。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は生涯這いまわり、塵を食らう。**お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く**。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く」——女は、蛇に誘われて楽園を失った**エバ**を指すとも言えます。

またパウロはエフェソ教会にこう手紙を書いています。「わたしたちの戦いは——暗闇の世界の支配者、**天にいる悪の諸霊**を相手とするものなのです」（6：12）。そこで、この暗黒の世界の支配者、**悪の諸霊**を**竜**と受け取り、神の子キリストを救い主と信じる信仰に立つ

**教会を女**とすることも出来ます。神の子キリストは鉄の杖をもって悪霊を打ち据え、諸国の民を治めるために、時が来るまで、神の御許に待機しておられます。地に落とされた竜が、女、すなわち教会を滅ぼそうとしても、神が荒れ野の中に備えた場所で養って下さっている——荒れ野のようなこの世で、**ロマ皇帝の厳しい迫害を浴びながら神の守りを頂いている教会**を述べていると読むことも出来ます。

神の**み子イエス**は、いよいよ宣教活動を開始される時に、先ず荒野に出てこの**悪魔と対決**されました。石をパンにせよ、高い神殿の屋根から飛び降りてみよ、悪魔と手を組んで世の権力を持つという誘惑を「**退け、サタン**」と一喝されました。悪魔は一時主イエスを離れますが、やがてユダヤ教の**大祭司**やローマ**総督**のピラトや**群衆**をそそのかして、み子イエスを十字架に磔にして殺しました。

しかしみ子は墓から**復活**して弟子たちの信仰を立ち直らせると、天に戻って行かれました。み子イエスが天に戻って来られたからには、**竜は最早、天に居場所がありません**。地上に追い落とされてしまいました。しかし赤い巨大な竜は、地上で神の子キリストを信じる者を迫害して最後のあがきを続けます。それが13章以下です。

## 【2】蛇のそそのかし

それにしても、この地に投げ落とされた巨大な竜、蛇、悪魔、サタンとも呼ばれ、全人類を惑わす竜・悪魔が、どうして**世に存在する**ようになったのでしょうか。聖書は、神が**天地万物を非常に良いもの**として創造された、という言葉で書き始められています。すると**悪魔**は何時、どのようにして**神の園**に存在するようになったのでしょうか？

神は、ご自分に似る者として**人間**を造り、神が創造された天地（楽園）の**全て**を管理させました。命の木の実を食べることすらお許しになりました。しかしただ一つ、**善悪を知る木の実**だけは食べることを禁じました。**善悪の判断**だけは神に聞き従え——この点でだけ人間は神と違う。しかしこれが、**神と人間との本質的な違い**だったのです。

ところが神に代わって管理の一切を委ねられた人間は、神に似る者として、善悪の判断も自分で下しても良いのではないかと、ごく自然に考えるようになり、その一線を越えてしまったのです。この**内なる心の動き**を聖書は、**蛇のそそのかし**と表現しました。

神の言葉に聞き従わずに食べてしまった後での、彼らの**最初の行動**——それは、神の足音を聞いて思わず**身を隠した**ことでした。**神との交わりの断絶**です。するとアダムとエバの家庭で、兄息子カインが弟アベルを殺してしまうという、**最初の殺人事件**が発生してしまいました。命の木の実を食べることすら許されていたのに、**死ぬ身**になってしまったのです。この**蛇のそそのかし**と表現される**エバの心の動き**に、私は**悪魔の発端**を見ます。

こうして神に聞こうとしないで生き始めた人間同士の**善悪の判断の食い違い**から、争い、殺人をはじめ数々の罪が生まれ、その罪を食べることで、**悪魔が成長**していき、**神の楽園**であるはずの**この世界を破壊する強力な存在**になったのではないのでしょうか。

ですから**善悪の判断は必ず神に聞き従い、自分勝手に下さない**ことを、何よりも大切にしなければなりません。ヤコブの手紙にこう記されています。「誘惑に遭うとき、だれも、**「神に誘惑されている」**と言ってはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです。むしろ、人はそれぞれ、**自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです**。そして、欲望ははらんで罪を生み、**罪が熟して死を生みます**。」(1:13~15)。私たちが抱えている欲望をそそのかして悪を行わせ、死に至らせる——これが**悪魔の仕業**なのです。

### 【3】日本を狂わせた竜

日本は 260 年続いた徳川幕府に代わり、明治時代になると、**天皇中心の国家体制**を造ることによって**近代化の歩み**を始めました。欧米の先進国に追いつくためには、**強力な政治体制**が必要です。そこで政府は、**天皇に対する国民の尊敬**を深めていくことで、**国民の団結**を強めようとしてきました。

日本人としての誇りを高めるために、日本は**万世一系の天皇**を戴いて 2600 年も続いてきた国で、このような国は世界にないのだという**歴史教育**が行われました。そしてアジアに日本の**覇権**を打ち立てていくために**軍事力を強化**し、遂に侵略戦争を始めてしまったのです。

私は 1939 年に小学校に入学しましたが、既にその 2 年前から**中国への侵略戦争**が始っており、学校では**天皇を神として礼拝する**行事が度々行われていました。**白馬にまたがる軍服姿**の神々しい昭和天皇の写真が、新聞や映画を通していつも示されました。天皇・皇后の写真と教育勅語とは、学校の正門と校舎の中間に建てられた奉安殿というコンクリート製の立派な社に安置されていて、登校・下校の時には、帽子を脱いで最敬礼しなければ、体罰に処せられました。私たちはこの天皇に忠誠を尽くし、戦場で**天皇陛下万歳**と叫んで死ぬことが一番**立派な生き方**なのだと教えられました。そしてその通りに信じていました。

しかし戦争に負けると、天皇は「自分は神ではない」と**人間宣言**をしました。そして背広姿の好人物・**平和愛好者**として何処へ行っても国民に歓迎されるようになりました。88 才で亡くなった後で、「軍人がのさばるようになり、**軍服**をいつも着るように要求され、とても嫌がり**苦痛**にさえ思っていた」という**皇后の言葉**が紹介されました。

でも私たち国民は、本人の気持ちがどうであれ、軍服姿の天皇を神として礼拝し、戦争に勝たなければと**奮い立っていた**のです。一人の平和愛好者を大元帥・そして神に仕立てて軍国主義政策を進め、310 万以上の日本人を死なせ、数千万人のアジアの人々を殺しまく

った日本の国・一億人の国民の**狂った行動**は、一体**誰の仕業**だったのでしょうか？ 黙示録はそこに**悪魔の正体**を見抜いています。

私はシンガポールに10年滞在し、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、韓国、中国等の諸国を訪ねて、私たち日本人がどれほど多くの人々に、残虐なことをしたかの一端に触れました。そして**自分の中にある罪深さ**を突きつけられる思いにさせられました。広島・長崎に原爆を落とさなければ、日本はまだまだ多くの命を殺しまくったのだという声を、私たちは**自分たちの残虐行為への批難**として、聞きとっていかねばならないと思います。それにしても 日本人をこのように狂わせた**巨大な赤い竜**の仕業の恐ろしさを、身に染みて覚え続けなければなりません。

### 【結】 今も続く竜の破壊活動

しかしこの巨大な赤い竜は、**天から投げ落とされました**。竜は地上で神の子キリストを信じる者を迫害して、最後のあがきを続けますが、それも永い期間ではありません。天から火が下ってきて焼き尽くされ、火と硫黄の池に投げ込まれて消滅するのです（20章）。

竜を地に投げ落とした天では、神と小羊を囲んで、**賛美と祈り**が日々に捧げられ、**喜びと平和**が満ちています。更に**殉教の死を遂げた人々**も、あらゆる国民、種族、言葉の違う民の中から集められ、純白の衣を身にまとい、礼拝に加えられます。

そして時が満ちると、主の祈り「**みこころの天になるごとく、地にもなせたまえ**」の通りに、**神の小羊・み子キリスト**が天より下って来られて、地にも神の支配を確立なさいます。そこで、神ならざる者が支配している**この世は終わる**のです。そしてこの地も天と同じにしてくださいなのです。

5月3日は**憲法記念日**です。明治以来の旧憲法時代に、我が国が誤った歩みをしてしまった罪を深く反省し、敗戦の翌年の11月3日に**新しい憲法**が公布され、半年後の**1947年5月3日**から施行されました。今年で69年になります。

「**第9条** 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、**国権の発動たる戦争**と、武力による威嚇又は**武力の行使**は、**国際紛争を解決する手段**としては、**永久にこれを放棄する**。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の**戦力**は、**これを保持しない**。国の交戦権は、これを認めない」 読む度に心が熱くなる条文ですね。

しかし、かつて日本を戦争へと導いた巨大な赤い竜が、この憲法を**改悪**させようと挑戦してきています。日本人ばかりでなく、アジアはじめ欧米諸国の**多くの貴い命を奪った戦争**の代償として 生まれた**平和憲法**です。軽々しく改正することは出来ません。**敗戦の時の深い後悔と反省**を、たとえ70年経ったとしても、国民として絶対に忘れてはなりません。**平和**

への旗印を少しでも降ろしかけてはなりません。天使たちが集まって、巨大な竜とその使いたちを地上に投げ落とししました。私たちも手を取り合ってこの巨大な赤い竜と戦わなければなりません。

アダムとエバは、神が禁じられた善悪の木の実を食べて、樂園を失ってしまいました。何が善であるか、何が悪であるか、その判断だけは、**神に聞き従うこと**——この定めを私たちはしっかり守らなければなりません。**憲法記念日**に当たり、神の御心をしっかり聞きとって、赤い竜に打ち勝つ決意を新にして参りましょう。今日の聖書には11節に、「神の小羊の血と自分たちの証しの言葉とで、彼に打ち勝った」と記されています。十字架の救い主イエス・キリストを信じる信仰に固く立って、赤い竜に打ち勝ちつつ、この世を生きて参りましょう。

祈ります：全知全能の主なる神さま、あなたの貴い御名を心から崇めます。私たちが今日も礼拝へとお導き下さいましたことを、感謝いたします。アダムとエバは唯一つあなたから禁じられていた木の実を食べて、樂園を失ってしまいました。ヘロデは誕生したみ子イエスを殺そうとして、大勢の幼子を殺しました。大祭司や総督は救い主を十字架にかけて、殺してしまいました、皇帝たちは自分たちを拝まないキリスト教徒たちを迫害し、命を奪いました。私たち日本人は、天皇を神として日の丸を掲げて、アジア諸国の人々を殺しまくりました。赤い竜のこのような恐ろしい働きが、今も世界を混乱と破壊と滅びの悲劇で満たし、私たちを苦しめています。どうぞこの巨大な竜をお裁き下さい。御心に聞き従って生きようとする者をお守り下さい。私たちを励まして、あなたの福音を全ての人に伝えさせて下さい。そして主よ、一日も早く、来て下さいますように。み国が天になるごとく、地にももたらしてください。救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。           アーメン